

# 習志野市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」・「総合戦略」の概要

## 習志野市人口ビジョン 【平成27(2015)～53(2041)年】

### I. 人口動向分析

- ◆総人口の推移、年齢3区分別人口の推移
    - ・H27年7月末現在総人口は約16万9千人で近年増加傾向。
    - ・H22年国勢調査においては、年少人口は微増だが、高齢化の伸展により、人口構成比は13.8%と過去最低。老年人口は、19.1%と過去最高更新。生産年齢人口は67.1%に微減。
    - ・H25年5月推計では、総人口は平成31年に約17万4千人でピークを迎え、徐々に減少し、H53年には約16万人に。
  - ◆出生・死亡、転入・転出の推移
    - ・合計特殊出生率は、H26年は1.35、出生数は1,408人。
    - ・転入・転出は近年各約1万人で推移（開発による変動大）。
  - ◆性別・年齢階級別の人口移動の状況
    - ・市内立地・隣接系3大学の入学・卒業により、15～24歳の男子が非常に大幅な転入超過となり、25～29歳に急激な転出超過に転ずる、近年は30～34歳の子育て世代は転入超過。
  - ◆県内外への人口移動の状況
    - ・県内の転入・転出先は、近隣の船橋市、千葉市に集中。
    - ・県外への転入・転出とも3割を占める東京は転出超過。
  - ◆地域ブロック別の人口移動の状況
    - ・東習志野・奏の社は開発で大幅増加、埋立地区は減少傾向
- 人口動向分析からみた課題

- ①近年の東京への転出超過過渡
- ②開発に大きく左右される社会増減と埋立地域の人口減少
- ③若者世代における男性の大幅な転入超過後の大幅な転出超過
- ④超高齢社会の急速な進展

### II. 将来人口の推計と分析

- <H25年5月人口推計を基に条件設定し複数シミュレーション>
- ◆人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察
    - ・生産年齢人口の減少は、担税力低下に繋がり、税收の減少に直結。財政状況及び公共施設維持管理・更新等へ影響大。

### II. 目指すべき将来の人口像

#### 1. 将来展望に必要な調査・分析の結果

<産業分析、市民意識調査、市内立地・隣接3大学学生意向調査、その他アンケート結果、各種意見交換会等を実施・分析>

#### 2. 目指すべき将来の人口像

**平成53(2041)年に人口16万4千人以上を目指します。**  
(市推計より約4千人の増)

・将来の人口像の実現に向けた基本方針:

**若者と子育て世代の定着・定住と、産み育てやすい環境づくりにより、現在まで増加を続けている人口をできるだけ維持し、将来の人口減少を最小限にとどめ、人を呼び込む、魅力あるくらしのできるまちを実現します。**

## 習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略【平成27(2015)～31(2019)年度:5ヵ年】

基本構想の将来都市像である『未来のために～みんながやさしさでつながるまち～』に向けたまちづくりを進める中で、習志野市で暮らすことに幸せ・魅力を感じていただき、将来にわたって、住みたい、住み続けたいまちとして選ばれ続けるために、「将来の人口減少と地域経済縮小の克服」、「まち・ひと・しごと創生と好循環の確立」を目指し、以下の3つの基本視点に基づき、基本目標や施策の基本的方向、具体的な施策を展開します。

### 【総合戦略における3つの基本視点】

- (1)人口減少問題への複眼的な取組 最大限の人口維持・減少幅抑制への取組と、一定程度の人口減少への適応のための取組の並行対応
- (2)習志野市の特性や強みを最大限に活かした取組 市の持つ強みを最大限に活かし、経済活性化や定住促進等、地域の活力を高める
- (3)習志野を愛し、時代を担うひとを呼び・育む取組 習志野に愛着を持ち、時代を担うひとを、更に呼びこみ、育む

### 基本目標1. 「安心して産み育てること、 未来をひらく教育を受けることができるまちづくり」

市民の希望の実現に向けて、若い世代が家庭を持ちやすい環境づくりのため、安心して働き、出産・子育てで、教育がしやすい環境整備に切れ目なく取り組み、子どもの健やかな成長を家庭・地域で支えていくまちづくりを進めます。

また、子育て支援に取り組むとともに、働き方の考え方や、働き方そのものの変革による長時間労働の是正を促すことで、男性の育児負担を促進します。

以上の取組を通じ、子どもを産み育てたい人の希望の実現を阻む社会・経済的な要因に対し、習志野市として全力を挙げてそれらを取り除くことに努めます。

### 基本目標2. 「魅力あるくらしのできる習志野へ “新しいひとの流れ”をつくるまちづくり」

若者や子育て世代の増加、定着・定住を促進するためには、単に「住む」ということだけでなく、豊かな「くらし」に繋がる付加価値を高めることが重要です。子育て支援や教育の充実、自然環境と人的環境の豊かさといった、本市がこれまで取り組んできたまちづくりの更なる向上とともに、くらしの基盤となる、ニーズに対応した多様な住宅の供給支援や、「習志野に行けば何か楽しいこと(心地良い時間、快適な空間、心躍ること)がある」といった“習志野ブランド”を積極的に発信し、住みたい、住み続けたいまちとして選ばれるまちづくりを進めます。

また、地域問題の解決に向けて大学と協働することにより、地域の成長力を高めるだけでなく、大学生が市への興味・愛着を持つ機会を増やし、若者の定着・定住に繋げることを目指します。

### 基本目標3. 「しごとをつくり、“働きたい”をかなえるまちづくり」

新たな産業及び雇用の創出は、地域経済の活力と本市の持続可能性の土台となるものです。

本市の持つ地域資源を最大限に活かし、新技術や新製品の開発、新たな事業分野への取組など付加価値の高いビジネスの創出により、地域活性化への貢献に繋がる仕組みづくりを支援するとともに、地域に根差した産業の創出など、身近なところで仕事の間をつくり出すことに努め、若者にとって魅力ある、いきいきと働ける場の創出を図ります。

社会変化や消費者のニーズに対応した新しい事業展開を促進し、賑わいと活力を創出する、地域経済・産業の振興により、人や企業から選ばれる活気あふれるまちづくりに取り組みます。

### 基本目標4. 「未来に対応する地域をつくり、支え合い・つながりで 安心なくらしを守るまちづくり」

将来における一定程度の人口減少を視野に入れ、負担を先送りせず、より良い資産を次世代に引き継ぐため、公共施設再生計画の確実な実行を通じて、時代に合った地域をつくるべく、既存ストックのマネジメント強化を図るとともに、多世代交流・多機能型拠点の形成など、必要な人口減少適応策に取り組みます。

また、高齢化の進展が予測される中においても、高齢者がいきいきと活躍し、まちの活気を創生する存在として、可能な限り住み慣れた地域で、安心して健やかに暮らせるよう、あらゆる側面から、対応を図ります。

互いに支え合い“やさしさでつながる”地域づくりを進めることによる、防災力の向上等により安全に暮らせる地域社会を構築するとともに、さらに、習志野に愛着を持つ地域内外の様々な主体が、地域を支える仕組みを推進します。

- 1)妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援の推進
- 2)子ども・子育て支援環境・支援策の充実
- 3)地域で子育てを支える取組の促進
- 4)教育環境の再整備の推進及び質の高い公教育の充実
- 5)働き方改革の啓発及び推進
- 6)結婚を望む若者が希望どおりに結婚し、子どもを持つよう、若い世代の経済的安定を図る。

- 1)若者や子育て世代のニーズに応え、多様な住み方が可能な魅力ある住まいの拡充を促す仕組みづくり
- 2)子ども世代が親元近くに住みたくする支援の強化
- 3)地域資源を最大限に活かした“習志野”のブランド化
- 4)住環境の良さや子育て・教育における先進都市づくりに係る発信力の強化
- 5)市と大学が地域問題の解決に向けて協働することによる地域の成長力の向上
- 6)立地・隣接3大学の学生の市への興味・愛着を持つ機会を増やし、若者の定着・定住を促進
- 7)美しい街並みや保全された自然環境のある地域づくり
- 8)交流人口を増やすまちづくり観光の推進

- 1)地域活性化へ貢献する、高付加価値な創業・起業に向けた環境支援
- 2)若者がいきいきと働ける場の創出
- 3)地域に根差した産業の育成
- 4)中小企業の活性化
- 5)地域交流の拠点である商店街における地域と連携した活力と魅力の創出
- 6)都市型農業の推進

- 1)将来の人口減少、高齢化の進展を踏まえた多世代交流・多機能型拠点の形成や、既存ストックマネジメントの強化の推進
- 2)高齢化の進展により予測される医療・介護需要の急激な伸長を想定した地域支援事業の充実など、地域包括ケアシステム構築の推進
- 3)“ふるさと習志野”意識の醸成によるいきいきとした地域社会、自助・共助意識の向上に基づく安全で安心な地域社会それぞれの運営・維持と、中心的な役割を担う人材育成の推進
- 4)他自治体との連携施策の推進